令和８年度　本明川学識者懇談会

資料－1

本明川（ほんみょう）総合水系環境整備事業

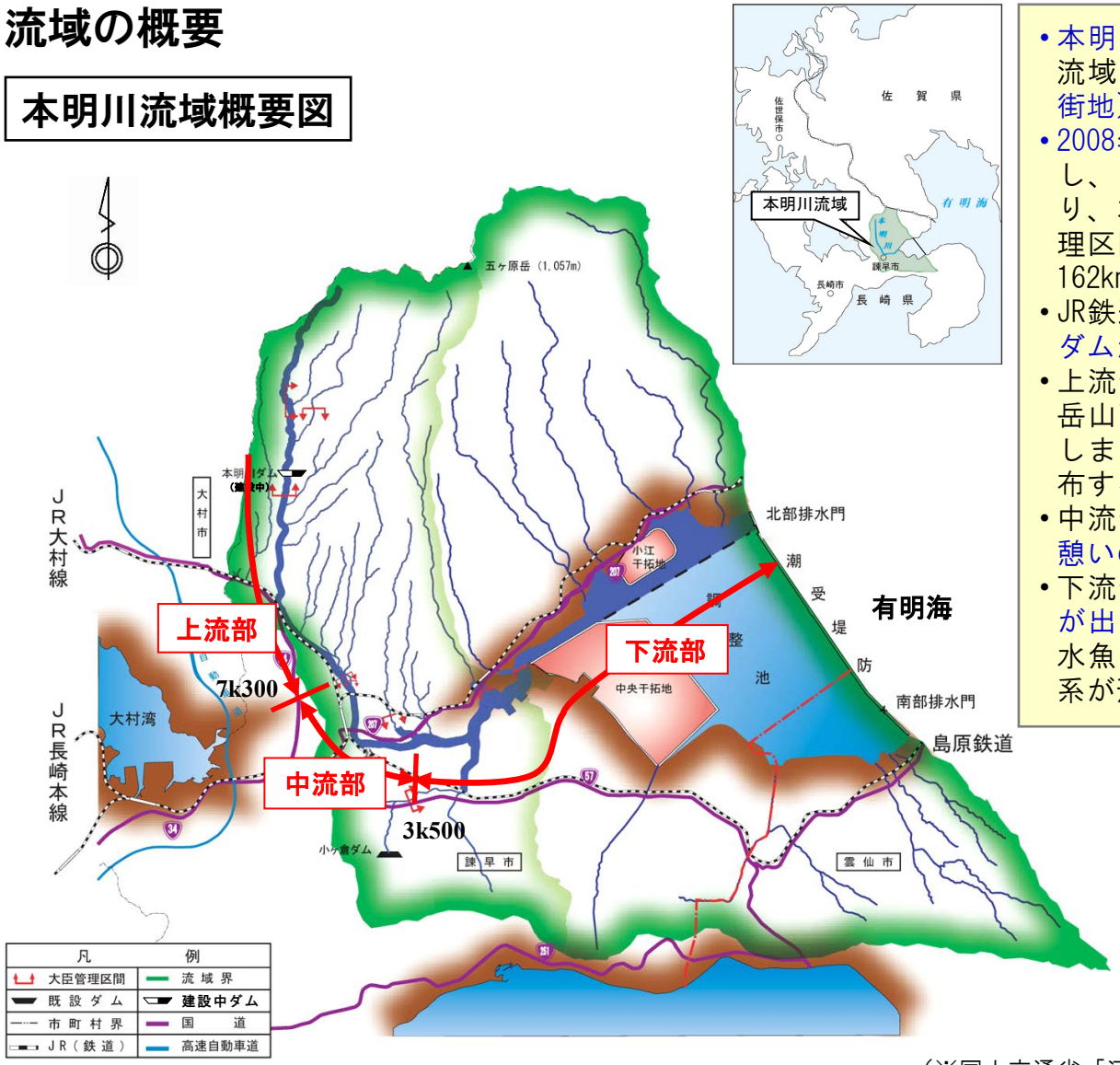


① 事業採択後３年経過して未着工の事業
② 事業採択後５年経過して継続中の事業
③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後３年経過した事業
④ 再評価実施後5年経過した事業
⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

流域の概要

本明川流域概要図



- 本明川流域は、長崎県諫早市及び雲仙市に属し、流域内人口のほとんどが本明川中流部（諫早市街地）に集中している。
- 2008年（平成20年）3月には諫早湾干拓事業が完了し、広大な干拓地が創出された。このことにより、本明川の下流部が約7km延伸（本明川大臣管理区間流路延長7.3km→14.2km）し、流域面積も162km²増加（87km²→249km²）している。
- JR鉄道橋から約6.5km上流付近では、現在本明川ダムが建設中である。
- 上流部では、「多良岳県立公園」である五家原岳山頂部の一部にモミ個体群や景勝地として親しまれている富川渓谷のスダジイ自然林等が分布するなど、豊かな自然環境を有している。
- 中流部では、諫早市街地を流れ、水辺は市民の憩いの空間として広く親しまれている。
- 下流部では、新たに調整池や広大な自然干陸地が出現し、ヨシ群落の繁茂、渡り鳥の飛来、淡水魚類の生息、水生生物や昆虫など新たな生態系が形成されている。

本明川の概要

流域面積	249km²
幹川流路延長	28km
流域内人口	約9万人※
流域内市町村	2市（諫早市・雲仙市）

（※国土交通省「河川関係統計データ」：平成22年国勢調査をもとに算出）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（１）地域開発の状況

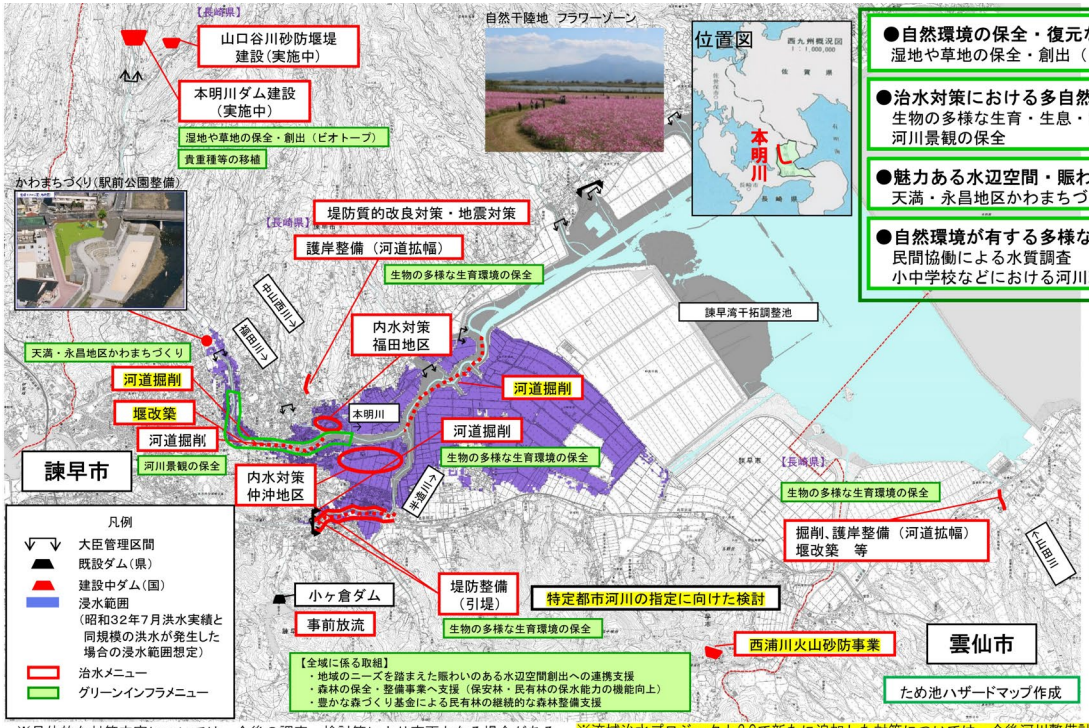
【本明川水系流域治水プロジェクト2.0】

・本明川水系国管理区間において、気候変動下でも、甚大な被害が発生した1957年（昭和32年）7月洪水（諫早大水害）の2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図ることを目指し、本明川水系流域治水協議会において、堤防整備や本明川ダムの建設、流出抑制対策の検討や特定都市河川の指定に向けた検討等、流域自治体が一体となった防災・減災対策を図る「本明川水系流域治水プロジェクト2.0」を2024年（令和6年）3月にとりまとめた。

【本明川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】】

・諫早市の「新幹線開業を活かした諫早市魅力創出行動計画」において、駅前公園整備による新たな親水空間の提供、本明川散策路整備による回遊促進を具体的な取り組みとして設定しており、概ね今後4年間（2024年（令和6年）3月時点）で天満・永昌地区でのかわまちづくりをすすめるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

●グリーンインフラの取組　　『川と触れ合い、親しめる潤いのある水辺空間の整備』



●自然環境の保全・復元などの自然再生
湿地や草地の保全・創出（ビオトープ）、貴重種等の移植

●治水対策における多自然川づくり
生物の多様な生育・生息・繁殖環境の保全
河川景観の保全

●魅力ある水辺空間・賑わい創出
天満・永昌地区かわまちづくり

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み
民間協働による水質調査
小中学校などにおける河川環境学習

かわまちづくり（水際環境の創出）



かわまちづくり（管理用通路の整備）



小中学校などにおける環境学習



【全域に係る取組】

・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援
・森林の保全・整備事業へ支援（保安林・民有林の保水能力の機能向上）
・豊かな森づくり基金による民有林の継続的な森林整備支援

「魅力ある水辺空間・賑わい創出」の取組として、“天満・永昌地区かわまちづくり”を推進することとしている。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。　※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（１）地域開発の状況／天満・永昌地区

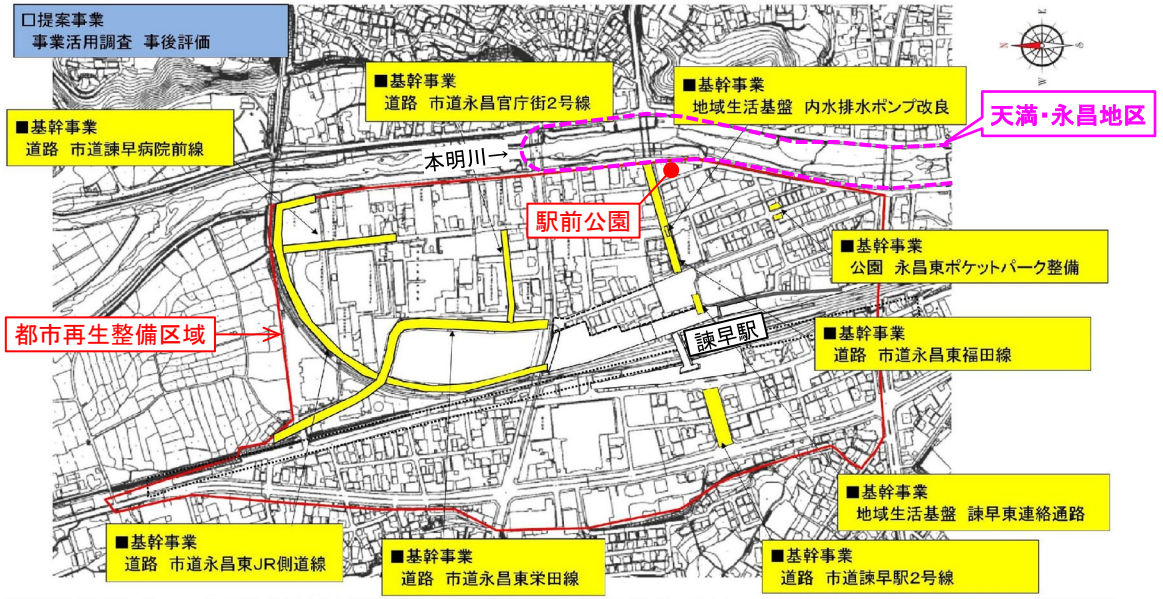
【自治体の取組（諫早駅周辺地区都市再生整備計画）】

・諫早市では、2022年（令和4年）の西九州新幹線の開業を機に、快適な都市空間を創出し、交流と活力を生み出す諫早駅周辺のまちづくりを進めるため、2015年（平成27年）から「諫早駅東地区第二種市街地再開発事業」を核とした都市機能の再整備により、自由通路、再開発ビル、公共交通広場など交流と賑わいの空間を創出し、地域活性化の基盤形成を進めている。

・西九州新幹線の開業及び諫早駅周辺の再開発事業により、駅の利便性向上やまちなか定住の促進による賑わいの創出が図られ、諫早駅の自由通路や再開発ビル、交通広場等の施設整備により、新幹線駅とバスターミナルが直結し、公共交通機関の乗り継ぎが大幅に改善されている。

・今後は、西九州新幹線の開業効果を更に高めるため、基盤整備による諫早駅周辺の交通結節点の強化を行い、駅周辺の豊かな自然環境を活かした回遊性の高い歩行空間の確保や防災拠点となる県南振興局や災害指定病院、災害時の避難所につながる道路網の充実を図り、まちなか居住の促進につなげるため以下の取組を進めることとしている。

①県央の玄関口としての更なる交通結節機能の強化
②交通弱者等への移動等円滑化と中心市街地の豊かな自然環境を活かした回遊空間の創出
③防災拠点一帯の道路交通網の充実
④都心機能の集積とゆとりある都市空間の創出によるまちなかへの居住誘導



諫早駅周辺地区（第3期：2024年（令和6年）度～2028年（令和10年）度）整備方針概要図（一部加筆）



諫早駅周辺の状況

出典）諫早市ホームページ

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（１）地域開発の状況／深海（ふかのみ）地区

【自治体の取組（都市・地域再生等利用区域への指定）】

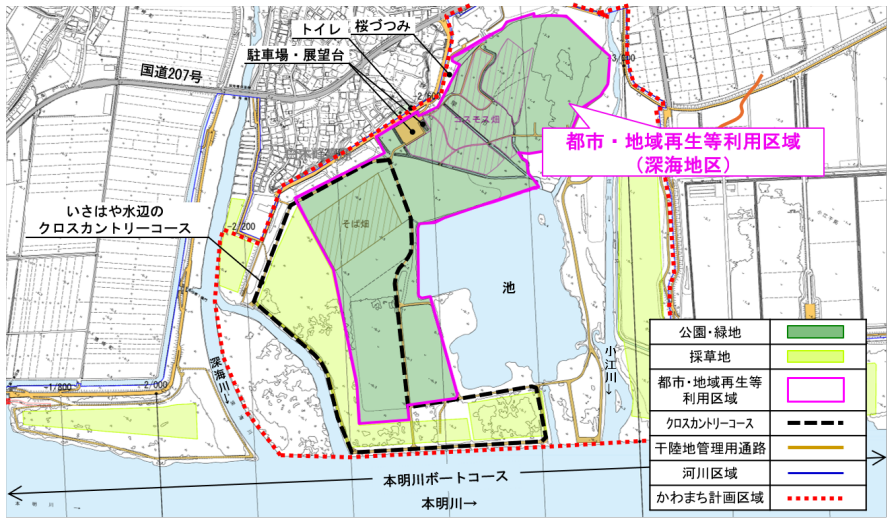
・諫早市高来町では干陸地を利用して、以前より地域住民によってコスモスの植栽などの環境美化活動が行われており、加えて地域の特産品の栽培・販売を行いたいとの要望を受け、諫早市を主体として河川敷地占用許可準則に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定（河川空間のオープン化）が行われた。占用主体である諫早市が民間事業者等と使用契約を結ぶことで、特産品の「幻の高来そば」の栽培や販売などの店舗等による営業やイベントの開催などが可能となり、干陸地を新たな地域資源として、地域振興や賑わいの創出を図っている。

【自治体の取組（本明川水上競技場活用促進事業）】

・諫早市では、国営諫早湾干拓事業により創出された本明川下流域における水上競技場が、全国でも有数のポテンシャルを有すると評価を受けていることを踏まえ、ローイング（ボート）競技の合宿等の誘致推進を通じてスポーツツーリズム及び交流人口の拡大を図り、公認コース認定につなげることとし、以下の取組みを進めることとしている。

①合宿誘致促進事業
②本明川水上競技場利活用事業
③センターブイ維持管理事業
④大会・イベント等

・また、市民の気運醸成や利用促進・情報発信の他、将来的な構想として深海干陸地内での競技用ローイングの施設整備を検討しており、内容について国、県及び県ローイング協会と連携しながら進めていくこととしている。



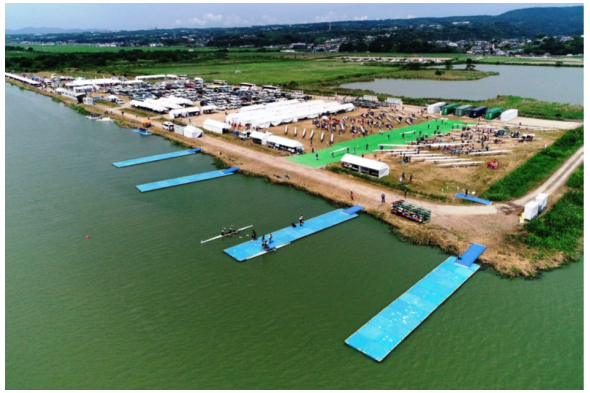
都市・地域再生等利用区域の指定範囲



コスモス畑



そば畑（幻の高来そば）



2024年（令和6年）度
北部九州インターハイの開催状況

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（２）地域の協力体制／天満・永昌地区

◆2012年（平成24年）4月から地域住民や学識者、諫早市、国土交通省等から構成される「本明川河川利用懇談会」を設立し、整備内容や河川空間利用者の安全性の向上等、様々な議論を経て実施している。

◆2016年（平成28年）度には、新幹線開業に向けて中心市街地のさらなる賑わいづくりを支援するため、駅前公園と本明川の一体整備（拠点づくり）について、本明川で長年河川愛護活動を続ける「本明川オピニオン懇談会」において整備内容や利活用に関する検討を行っている。

◆管理用通路等が整備された河川空間では、地域住民等により定期的に清掃活動が行われている。

◆整備された駅前公園広場は、“リバっぱ”という愛称で親しまれ、永昌東町自治会のほか、長崎大学、鎮西学院大学の学生や永昌東町商店街メンバーの企画・運営によるイベントも開催されている。



地域住民等による清掃活動



駅前公園広場（愛称“リバっぱ”）お披露目会
（2024年（令和6年）3月31日）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（２）地域の協力体制／深海地区

◆2024年(令和6年)11月から地域住民や学識者、諫早市、国土交通省等から構成される「本明川・深海地区かわまちづくり協議会」（承認組織）、「本明川・深海地区かわまちづくり検討部会」（実践組織）を設立し、かわまちづくり計画の検討を進め、2026年(令和8年)8月に認定登録を受けた。

◆かわまちづくり支援制度の登録後も、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について議論していく予定であり、今後も地域の協力が見込まれる。

◆都市・地域再生等利用区域に指定されている自然干陸地フラワーゾーンではコスモスや幻の高来そばといった農作物が栽培され、地域住民等により定期的に清掃活動が行われている。

◆自然干陸地フラワーゾーンや本明川水上競技場では、地元団体の企画・運営によるイベントも開催されている。

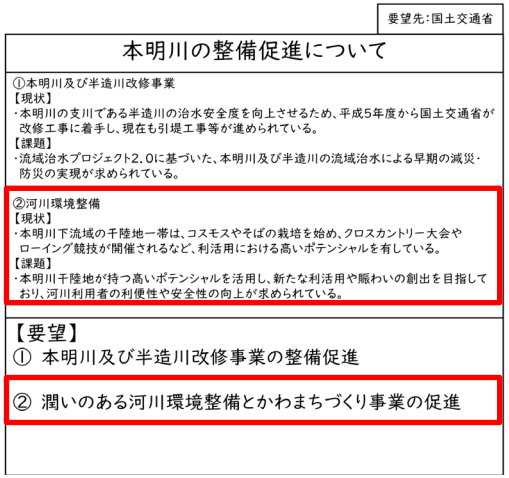
◆流域自治体の諫早市より本明川の整備促進に関する要望書が提出されるなど、環境整備の促進を望む声が大きい。



地域住民等による清掃活動



地元団体によるイベント「コスモス祭り」の開催



要望先：国土交通省

本明川の整備促進について

①本明川及び半造川改修事業
【現状】
・本明川の支川である半造川の治水安全度を向上させるため、平成5年度から国土交通省が改修工事に着手し、現在も引堤工事等が進められている。
【課題】
・流域治水プロジェクト2.0に基づいた、本明川及び半造川の流域治水による早期の減災・防災の実現が求められている。

②河川環境整備
【現状】
・本明川下流域の干陸地一帯は、コスモスやそばの栽培を始め、クロスカントリー大会やローイング競技が開催されるなど、利活用における高いポテンシャルを有している。
【課題】
・本明川干陸地が持つ高いポテンシャルを活用し、新たな利活用や賑わいの創出を目指しており、河川利用者の利便性や安全性の向上が求められている。

【要望】
① 本明川及び半造川改修事業の整備促進

② 潤いのある河川環境整備とかわまちづくり事業の促進

諫早市政策要望書（2026年(令和8年)7月）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（3）関連事業との整合／天満・永昌地区

◆「本明川河川利用懇談会」により、河川利用上の問題点や管理用通路の整備等本明川河川空間の面的整備について議論されており、その中で、「天満・永昌地区かわまちづくり」の検討を進め、2013年（平成25年）3月に認定登録をうけている。

◆「本明川オピニオン懇談会」及び「本明川河川利用懇談会」により、駅前公園と本明川の一体的な拠点整備について議論されており、その中で、「天満・永昌地区かわまちづくり（変更）」の検討を進め、2020年（令和2年）3月に変更認定登録をうけている。

◆諫早市では、新幹線開業効果を最大限に引き出すため、「新幹線開業を活かした諫早市魅力創出行動計画」を2019年（平成31年）4月に策定し、基本戦略「拠点整備」の施策として「諫早駅周辺回遊促進のためのハード整備～自然を活かした空間づくり～」を設定し、「①駅前公園整備による新たな親水空間の提供」及び「②本明川散策路整備による回遊促進」による本明川を活用した取り組みを進めることとしている。



様式B

「天満（てんまん）・永昌（えいしょう）地区かわまちづくり」（諫早市）

市町村名：長崎県諫早市

対象河川：本明川水系本明川

1. 概要

諫早市では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の開業に向け、諫早駅周辺地区の整備構想等を策定しており、その中で諫早市のシンボルとなっている本明川の自然環境や景観を保全・創出するとともに、本明川を自然や四季を感じる空間として位置付け、「まちなかにある諫早固有の自然や、「諫早万灯川まつり」や「本明川魚つかみ取り大会」等の地域のイベント・祭りといった「諫早らしさ」を引き出すような施設整備や都市景観の創出を図ることにより、「生活するひと」や「訪れるひと」がほっと癒される空間の形成を進めている。

そこで、駅周辺整備や都市再生整備等と合わせ、諫早市のシンボルとなっている本明川の自然環境や景観を保全・創出する水辺整備を行うことにより、本明川を自然や四季を感じる空間として魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、観光振興への寄与を図る。

2. 整備内容

天満・永昌地区かわまちづくり整備イメージ

諫早万灯川まつり

天満・永昌地区かわまちづくり（2013年（平成25年）3月登録）

基本戦略Ａ　【拠点整備】
－県央地域の玄関口としての機能強化・充実－

A	施策	具体的取組
A-1	新幹線開業に合わせた諫早駅周辺整備 ～県央地域の拠点にふさわしい駅空間の整備～	① 新幹線駅舎整備 ② 諫早駅周辺整備
A-2	諫早駅から周辺観光地等へのアクセス向上 ～諫早駅と周辺地域のネットワークづくり～	① バス待合所と交通広場の整備 ② 地域公共交通の適切な接続 ③ 互換性のある交通系ＩＣカード導入 ④ 周辺道路交通網の整備 ⑤ 駐車場、駐輪場の整備
A-3	諫早駅周辺の商業施設の充実 ～商い空間の整備～	① 再開発ビル内への商業床の整備 ② 民間投資による諫早駅周辺の活性化
A-4	諫早駅の「おもてなし空間」の整備	① 自由通路観光案内ＰＲコーナーの充実 ② 交流広場の整備（再開発ビルⅠ棟２工区） ③ 周辺飲食店情報等の適切な提供
A-5	諫早駅周辺回遊促進のためのハード整備 ～自然を活かした空間づくり～	① 駅前公園整備による新たな親水空間の提供 ② 本明川散策路整備による回遊促進
A-6	交通利便性が高い諫早駅周辺への定住促進 ～居住空間の提供～	① 再開発ビルⅡ棟（マンション棟）の整備 ② 民間投資の誘発

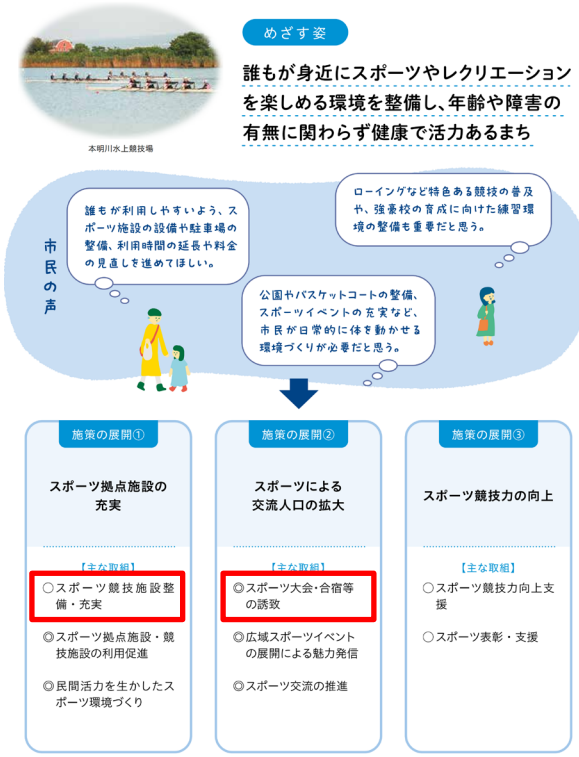
新幹線開業を活かした諫早市魅力創出行動計画（2019年（平成31年）4月）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（3）関連事業との整合／深海地区

◆諫早市では、「第3次諫早市総合計画」を2026年（令和8年）4月に策定し、ローイング競技の普及や強豪校の育成に向けた練習環境の整備が必要として、スポーツ拠点施設の整備や充実、また、スポーツ大会・合宿等の誘致による交流人口の拡大に取り組むこととしている。

◆諫早市では、「諫早市都市計画マスタープラン」を2020年（令和2年）3月に策定（2026年（令和8年）5月一部改訂）し、高来地域の地域づくりとして、本明川河口部における河川敷地、自然干陸地を最大限に活かしたかわまちづくり計画を推進し、新たな賑わいの拠点づくりを進め、交流人口の増加に取り組むこととしている。



第3次諫早市総合計画（2026年（令和8年）4月）

2）都市施設・交通ネットワークに関する整備方針

地域の利便性向上に資する道路整備に努めます

【実現化へ向けての取組】
- ○地域の利便性向上のため、広域交通軸となる国道 207 号東長田拡幅（長田バイパス延伸）の整備促進
- ○有明海沿岸地域の環状高速ネットワークを形成する有明海沿岸道路（鹿島～諫早）の実現に向けた取組の促進
- ○地域補助幹線道路となる一般県道多良岳公園線の適切な維持管理及び必要に応じた部分的な改良の促進
- ○生活環境の改善のため、広域農道多良岳南部線など集落地における生活道路の適切な維持管理及び必要に応じた部分的な改良の推進

公共交通機関の利便性の向上を図ります

【実現化へ向けての取組】
- ○広域幹線道路及び地域補助幹線道路上の公共交通ネットワークの維持・形成による中心拠点との機能連携を推進し、地域内で不足するサービス等の機能分担を図る
- ○公共交通機関の空白地域の解消を図る乗合タクシー運行事業などの推進
- ○周辺集落地と生活拠点の公共公益施設などを結ぶ公共交通ネットワークの維持・形成に向けた民間事業者の移動サービスとの連携
- ○轟峡・轟渓流やいこいの森たかきなどへの周遊観光を念頭に置いた公共交通の路線再編等の促進
- ○新幹線開業後における鉄道の利便性の維持確保に向けた関係機関との連携（普通列車の運行水準の維持を図る）

交流・憩いの場となる公園等の整備や活用を進めます

【実現化へ向けての取組】
- ○地域住民の交流の場としてのグラウンドや屋内ゲートボール場など既存施設の活用
- ○地域の自然環境を活かした新たな観光・レクリエーションの場としての活用の検討
- ○本明川河口部における河川敷地、自然干陸地を最大限に活かしたかわまちづくり計画を推進し、新たな賑わいの拠点づくりを進め、交流人口の増加を図る

既存の公共施設の有効活用を図ります

【実現化へ向けての取組】
- ○公共施設の空きスペースの活用など既存建物の有効活用の検討

諫早市都市計画マスタープラン（2020年（令和2年）3月）※2026年（令和8年）5月一部改訂

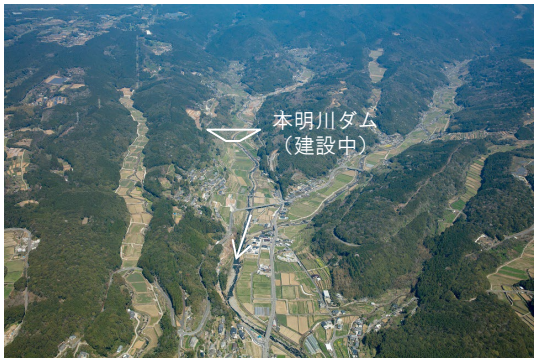
1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（４）河川環境等をとりまく状況

■各区間の特徴

【上流部】

- スギ･ヒノキ植林の中の渓流部を抜けて、両岸に広がる棚田の間を南下する。JR鉄道橋から約6.5km上流付近では、現在本明川ダムが建設中である。
- 河道内に点在する小規模な瀬と淵に、カジカやカワムツなどが生息・繁殖するとともに、局所的に形成された早瀬の浮き石状態の礫間にはアリアケギバチが生息・繁殖している。
- 景勝地の富川渓谷があり、自然探勝や行楽に訪れる人々の憩いの場となっている。



上流部

【中流部】

- 諫早市街地を流れ、特殊堤区間の水辺には河川公園や遊歩道が整備されている。
- 国指定天然記念物の城山暖地性樹叢が公園堰右岸にあり、水と緑の環境を創出している。水域はオイカワやカワムツなどの生息・繁殖の場となっており、それらをエサとするカワセミやサギ類が見られる。
- 河川空間は、散策や水遊び釣りなどに利用され、沿川住民に親しまれている。


中流部

【下流部】

- 干拓により開けた広い水田地帯を、緩やかに蛇行しながら流下する。
- 高水敷に広がるヨシやオギなどの植物群落が、オオヨシキリ、カワセミ、コサギなどの鳥類や葉上生活を営むカヤネズミにとって好適な生息空間になっている。諫早湾干拓事業により延伸された区間では、塩沼湿地が消失して新たに調整池や広大な自然干陸地が出現し、水辺ではヨシ群落の繁茂、渡り鳥の飛来、淡水魚類の生息、水生生物や昆虫など新たな生態系が形成されている。
- 仲沖地区では桜づつみ、自然干陸地ではフラワーゾーン・クロスカントリーコース、調整池ではボートコースが整備され、地域が主体となって水辺の賑わいの創出が行われている。


下流部

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（５）河川の利用状況

◆本明川中流部の諫早市街地区周辺の河川敷や水辺では、地域住民の憩い、安らぎの場として散策や水遊びなどの日常的な利用のほか、「諫早万灯川まつり」、「流鏑馬」、「本明川魚つかみ取り大会」等のイベントや近隣小学校の環境学習などに利用され、親しまれている。

◆本明川下流部の仲沖地区の水辺では、管理用通路や多自然護岸等の整備を行い、日常的な散策や魚釣り、自然観察、環境学習の場等として利用され親しまれており、当該地区に整備された「本明川桜づつみ」は諫早市の桜観賞のスポットになっている。

◆本明川下流部の「干陸地フラワーゾーン」では、地域住民によってコスモスの栽培などの環境保全活動が行われ、秋にはコスモスまつりが開催されている。深海地区では、「幻の高来そば」と呼ばれる地域のそばを、栽培・販売する試みが行われている。これら地域の取組み等を踏まえ、2021年(令和3年)8月、本明川河川敷（高来地域）において都市・地域再生等利用区域の指定（河川空間のオープン化）が行われている。

◆本明川下流部の直線で5kmを超える長大な水面は、本明川水上競技場（本明川ボートコース）として利用されており、2022年(令和4年)10月には日本オリンピック委員会の競技別強化センターに認定された。2020年(令和2年)からは、本明川の地域資源に親しむ機会をスポーツを通じて創出することを目的に、「本明川スポーツフェスタ」が開催されている。また、2024年(令和6年)度全国高等学校総合体育大会のローイング競技会場にもなっている。



散策



諫早万灯川まつり



本明川魚つかみ取り大会



本明川桜づつみ



コスモスまつり



ボート競技

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

費用対効果分析（水系全体）

項　目	前回評価時 2025年(令和7年)度	今回評価時 2026年(令和8年)度	変更理由
総事業費	約16億円 【水辺整備】 ・仲沖・新地地区：約8.4億円 ・天満・永昌地区：約7.3億円	約23.9億円 【水辺整備】 ・天満・永昌地区：約7.3億円 ・深海地区　　：約16.7億円	・水辺整備事業の新規整備（深海地区）による事業費の追加、予定完了年の変更 ・完了評価済み整備事業（仲沖・新地地区）の事業計画からの除外による事業費の削減及び便益の変更 ・現在価値化による更新 ・集計世帯数の更新による便益の変更
事業完了年	2027年（令和9年）度	2040年(令和22年)度	
B／C	1.8	2.6	
B（便益）	約51億円	約49.7億円	
C（費用）	約28億円	約19.4億円	

※ 2025年(令和7年)度より、工事諸費を除いた額をC（費用）として算出。

※ B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率（4%）を考慮し完成後５０年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後５０年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

＜費用対効果等＞

事業区分				事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)※1	B/C	EIRR※3
全事業				23.9億円	―	49.7億円	19.4億円	2.6 ※2：社会的割引率 1%の場合：4.7 2%の場合：3.8	10.0%
	継続箇所			23.9億円	―	49.7億円	19.4億円	2.6	10.0%
		水辺整備		23.9億円	―	49.7億円	19.4億円	2.6	10.0%
			天満･永昌地区	7.3億円	管理用通路、管理用階段、護岸、高水敷整正、モニタリング調査　等	37.4億円	8.8億円	4.3	―
			深海地区	16.7億円	高水敷整正、管理用通路、階段護岸、基盤整生、モニタリング調査　等	12.3億円	10.6億円	1.2	―
残事業				16.7億円	―	12.5億円	10.6億円	1.2 ※2：社会的割引率 1%の場合：2.5 2%の場合：1.9	4.7%
	残事業	水辺整備	天満･永昌地区	0.02億円	モニタリング調査	0.2億円	0.02億円	7.7	―
			深海地区	16.7億円	高水敷整正、管理用通路、階段護岸、基盤整生、モニタリング調査　等	12.3億円	10.6億円	1.2	―

※1：2025年(令和7年)度より、工事諸費を除いた額を「費用：C」として算出
※2：B/Cの算出にあたり、社会的割引率は全事業において4%を適用しているが、最新の社会経済情勢等を踏まえ、比較のために参考とすべき値を2%、及び、1%と設定し、2023年(令和5年)度以降に適用した場合の算出結果を示した。
※3：EIRR（経済的内部収益率）は、便益と費用の現在価値が等しくなる割引率であり、EIRRが社会的割引率を上回る場合、当該事業は経済性の観点から妥当と評価される。

	アンケート実施時期	アンケート手法	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払意思額（円／月･世帯）
天満･永昌地区	2020年(令和2年)度	郵便	2,000票	375	半径10km圏内	51,795	291円
深海地区	2026年(令和8年)度	郵便	2,000票	266	半径10km圏内	26,432	313円

※CVM（仮想的市場評価法）は、アンケート等を用いて事業効果に対する住民等の支払意思額を把握し、これをもって便益を計測するものであり、環境整備事業おいて広く採用されている。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

＜費用対効果等（感度分析）＞

項目		基本ケース	感度分析					
			事業費		工期		資産	
			+10%	−10%	+10%	−10%	+10%	−10%
全事業	便益:B（億円）	49.7	49.7	49.7	49.2	50.2	54.6	44.7
	費用:C（億円）	19.4	20.4	18.3	19.2	19.6	19.4	19.4
	B/C	2.6	2.4	2.7	2.6	2.6	2.8	2.3
残事業	便益:B（億円）	12.5	12.5	12.5	12.0	13.0	13.7	11.2
	費用:C（億円）	10.6	11.7	9.6	10.4	10.9	10.6	10.6
	B/C	1.2	1.1	1.3	1.1	1.2	1.3	1.1

○事業費、工期、資産がそれぞれ±10%に変動した場合のB/Cを算出した。
○すべてのケースでB/Cが1.0以上となった。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

≪効果名≫	【効果の概要】

①便益の算出：約４９．７億円
（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②歴史的文化を活かした教育効果：諫早神社、諫早公園（眼鏡橋）等と一体となった利用の場の創出 P18、20

③地域のにぎわいの創出：水辺イベントの開催の場
地域のイベント時の観覧場所として活用 P20、22、26

④治水安全性の向上　：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化 P18、23

⑤良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した野外学習（水生生物調査等） P20、29

⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）　全体事業（Ｂ／Ｃ）：２．６
残事業　（Ｂ／Ｃ）：１．２

※ 各ページの該当箇所に対応

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

（1）事業採択年・工事着手年

区　分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	天満（てんまん）・永昌（えいしょう）地区	2013年（平成25年）度 ～2027年（令和9年）度	継続箇所
	深海（ふかのみ）地区	2027年（令和9年）度 ～2040年（令和22年）度	新規箇所
本明川総合水系環境整備事業		2013年（平成25年）度 ～2040年（令和22年）度	

※水辺整備（仲沖（なかおき）・新地（しんち）地区）は完了評価済みのため、
今後の事業評価の対象外とする



凡　例	
	流域界
	河川
	完了事業箇所 （H27年度報告済み） ※事業計画から除外
	継続事業箇所
	新規事業箇所

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

（2）事業の進捗状況（継続箇所：天満・永昌地区（水辺整備））

1）事業の必要性等（面的整備）

◆諫早市では、2022年（令和4年）度九州新幹線（西九州ルート）の開業に向け、本明川沿いを安全に楽しく巡ることができる歩行者ネットワークの確保などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備、中心市街地活性化等を進めてきた。

◆当該地区は諫早市中心市街地に位置するものの、河川敷に降りるための階段が急勾配であること、一連区間において管理用通路が整備されていないことから、安全に散策できない状況であった。







【整備前の状況】

◆天満・永昌地区に位置する本明川の水辺空間を活かして管理用通路及び階段を整備することで、地域の活性化や安全安心に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図ることが可能となる。

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

1）事業の必要性等（拠点整備）

◆諫早駅に最も近い本明川に隣接する「駅前公園」は諫早大水害の痕跡を示す洪水水位標が設置され、水害の歴史を再認識できる重要な場所である。

◆ 2022年（令和4年）度 新幹線諫早駅開業に向け、管理用通路の整備も含め、諫早駅周辺整備等、新幹線開業効果を最大限に引き出すための様々な取り組みが行われるなか、「駅前公園」は諫早駅利用者等を本明川へ導く玄関口として期待され、「本明川」と一体となった新たな賑わいの拠点整備のニーズが高まっているが、駅前公園と本明川は、急勾配の護岸やコンクリートの堤防（パラペット）で分断され、水辺に親しみにくく、賑わいの創出が図れていない状況であった。

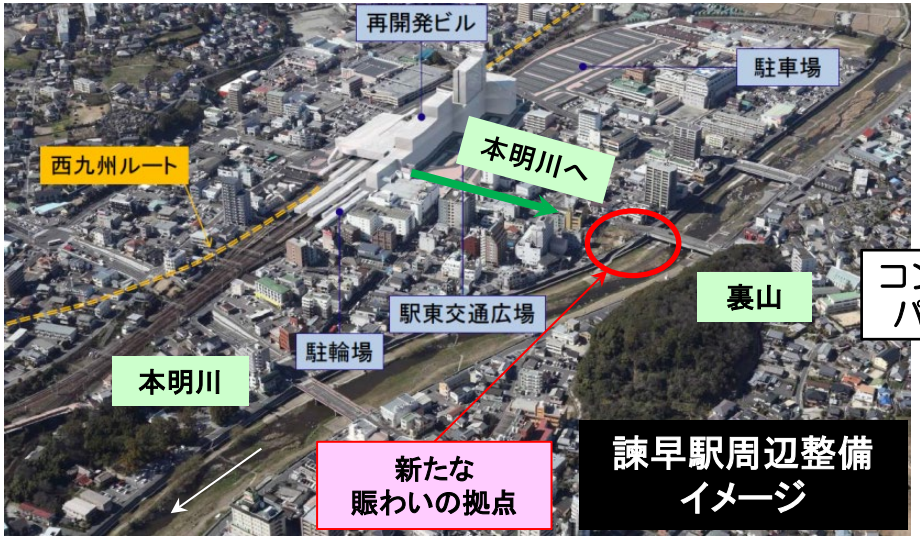
◆近年の洪水の発生状況等を踏まえ、洪水時に河川内に流入、堆積した塵芥及び流木の集積、搬出等、維持管理機能の強化が必要となっているが、当該地区では坂路等が狭く大規模な塵芥等を搬出等を行える場所がない。

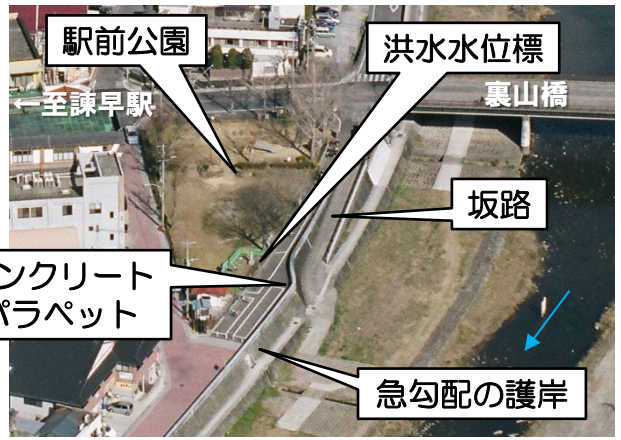


洪水水位標



流木の堆積状況
（S32. 7諫早大水害）





整備前の状況（駅前公園）

◆駅前公園の立地を活かして、水辺に近づきやすい堤防や坂路、高水敷整正等の整備により新たな賑わいの拠点が創出され、多くの人が駅前公園周辺に訪れ、水辺を楽しみ、水害の歴史を感じることができ、塵芥等の搬出等の維持管理機能の強化も図ることが可能となる 。

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2）事業の概要・目的

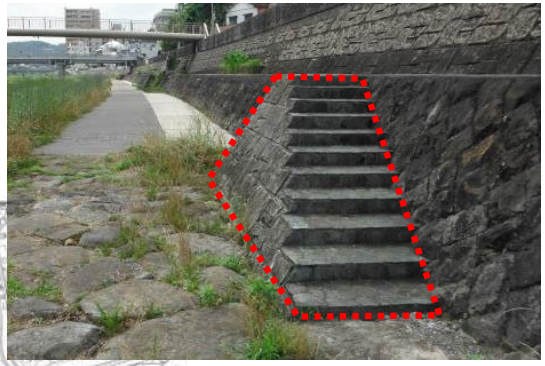
◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、管理用通路や階段、護岸（緩傾斜）等の面的整備を行う 。（2017年（平成29年）度整備完了）



【整備状況（面的整備）】

管理用通路

管理用階段



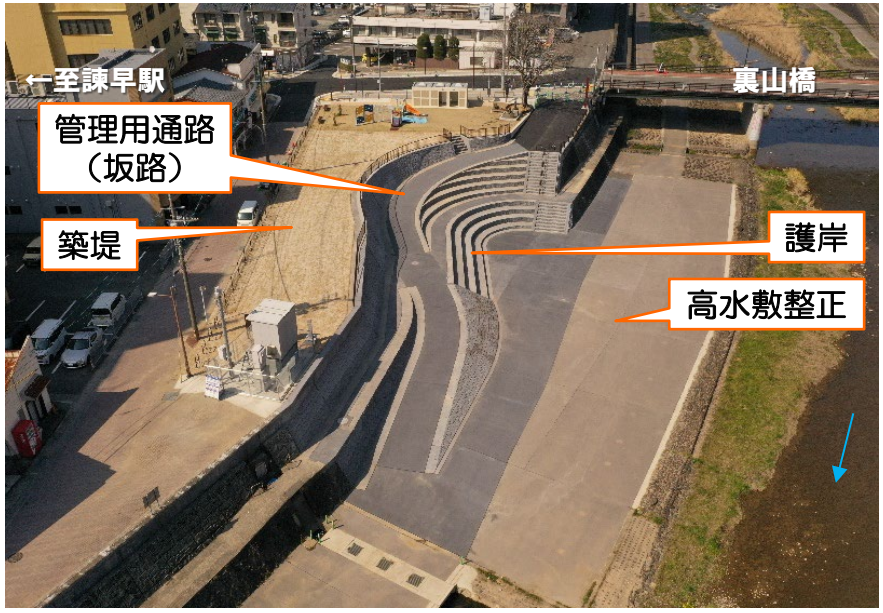
護岸（緩傾斜）



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

◆駅前公園と本明川が一体となった新たな賑わいの場の創出と河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、高水敷整正や護岸、管理用通路（坂路）等の拠点整備を行う。（2023年(令和5年)度整備完了）

【整備状況（拠点整備）】



【概要（面的整備、拠点整備）】

位　　置	本明川3k200～6k200
事業区分	水辺整備
主な整備内容	面的整備：管理用通路、管理用階段、護岸、モニタリング調査　等 拠点整備：高水敷整正、護岸、管理用通路(坂路)、築堤、モニタリング調査　等
事業費	7.3億円
整備完了年	2023年(令和5年)度
事業期間	2013年(平成25年)度～2027年(令和9年)度

【工程表（面的整備、拠点整備）】

工種		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
面的整備	管理用通路	■	■	■	■											
	管理用階段	■	■	■												
	護岸					■										
拠点整備	高水敷整正等									■	■	■				
モニタリング調査							■	■	■				■	■	■	■

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

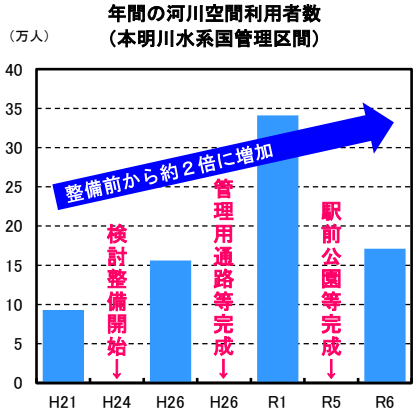
3）事業の現状

◆2017年(平成29年)度に整備完了した面的整備区間では、通勤、通学、散歩などの日常の利用や諫早神社や諫早公園等の諫早市の歴史あるスポットへのルートでもあり、また、子供たちの野外学習や諫早万灯川まつりや、流鏑馬等のさまざまなイベントに活用されており、地域住民等による清掃も行われている。



管理用通路利用状況

通勤、通学、散歩など日常的にも利用されている。年間の河川空間利用者数も、整備後には整備前から約2倍に増加している。





野外学習状況





◆流鏑馬

管理用通路等の面的整備により、堰で分断されていた諫早神社と下流の河川敷が繋がり、上下流の周遊ができるようになったことに起因し、本明川の河川敷でやぶさめ奉納が100年ぶりに復活。（2018年(平成30年)4月～）



地域住民等による清掃状況

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

◆2013年(平成25年)3月にかわまちづくり支援制度の登録を受け、地域の皆さんとの話し合いを重ね、自然や祭りなどの「諫早らしさ」を引き出すために進められた天満・永昌地区かわまちづくり事業が完了。
◆2024年(令和6年)3月23日（土）「天満・永昌地区かわまちづくり事業竣工式」を国土交通省長崎河川国道事務所、諫早市で共同開催。来賓の方々、地元関係者、施工業者、国・県・市の担当者約70名が参加。水辺の憩いの空間が創出された喜びと、新たなまちの賑わいづくりへの期待にあふれていた。

日時 ： 令和6年3月23日(土)
10時30分～11時40分
場所 ： 長崎県諫早市永昌東町
本明川裏山橋付近河川敷及び駅前公園
次第 ： オープニングアトラクション
開式
黙祷
式辞(九州地方整備局長)
来賓祝辞(長崎県知事、国会議員、地元県議会議員)
来賓・主催者紹介
祝電披露
事業概要説明
地元代表からの言葉
テープカット・くす玉開披
謝辞(諫早市長)
閉会


▲式辞 森戸局長


▲祝辞 大石長崎県知事


▲祝辞 加藤衆議院議員


▲祝辞 古賀参議院議員


▲祝辞 山本参議院議員


▲祝辞 徳永県議会議長




▲分断なく堤防と一体となった駅前公園



▲諫早天満太鼓によるオープニングアトラクション



▲テープカット・くす玉開披


▲謝辞 大久保諫早市長

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

◆2023年（令和5年）度に整備完了した拠点整備箇所では、駅前公園と一体となった憩いの場や通勤、通学、散歩など本明川を利用するための入り口でもあり、新たな拠点として整備した駅前公園前の河川敷広場は、愛称“リバっぱ”として親しまれ、市民企画のイベントも行われている。

◆駅前公園広場お披露目会が2024年（令和6年）3月31日に永昌東町自治会主催で開催され、70名を超える参加者で賑わった。地域の方々からは音楽祭や夏祭り等で活用したいとの声が聞かれ、幅広い世代による利用が期待されている。

日時 ： 令和6年3月31日(日) 11時～
場所 ： 長崎県諫早市永昌東町
本明川裏山橋付近河川敷及び駅前公園

次第 ： 永昌東町自治会長 挨拶
県議会議員説明（公園の使い方）
鎮西学院大学JAZZ部 演奏
永昌東町商店街協同組合理事長 歌唱
鎮西学院大学JAZZ部顧問 歌唱
永昌東町子供会 踊り（パプリカ）
じゃんけん列車
はまだこういちろうと仲間たち 演奏
紅白餅まき



▲挨拶永昌東町自治会長



▲鎮西学院大学JAZZ部 演奏

※「リバーサイドの原っぱ」→愛称 「リバッぱ」



▲じゃんけん列車



▲説明



▲はまだこういちろうと仲間たち 演奏



▲観覧席として利用される階段護岸



▲永昌東町子供会 踊り（パプリカ）



▲餅まきの様子

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

（2）事業の進捗状況（新規箇所：深海地区（水辺整備））

1）事業の必要性等

◆諫早市では、「本明川水上競技場活用促進事業」を推進し、ローイング競技の大会・合宿誘致や水辺スポーツの体験プログラムの充実によるスポーツツーリズム、また、本明川の文化・自然などの地域資源を活かしたツーリズムの展開を通じ、水辺空間の価値向上とにぎわいの創出を目指している。

◆当該地区において、本明川水上競技場へと続く通路には不陸等があり、安全な通行が困難な状況となっているほか、競技会場となる高水敷では雑草が繁茂し、草刈りの労力負担が問題となっている。また、水際では自然河岸の浸食によってボートの安全な運搬や競技観覧が困難な状況となっている。

【航空写真】



【整備前の状況】



◆深海地区に位置する本明川の水辺空間を活かして高水敷整正、管理用通路及び階段護岸等を整備することで、地域の活性化や安全安心に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図ることが可能となる。



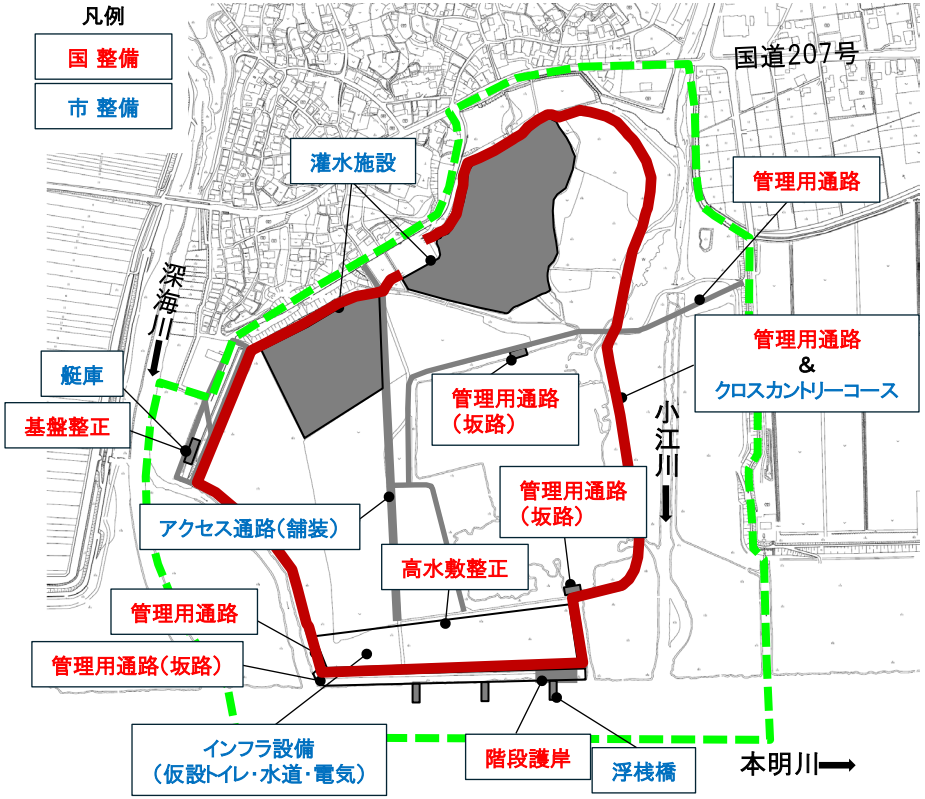


1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2）事業の概要・目的

◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、高水敷整正や階段護岸、管理用通路等の整備を行う 。

【整備イメージ】



【概要】

位　　置	本明川-2k000～-3k000
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、階段護岸、管理用通路、管理用通路（坂路）、基盤整正、モニタリング調査　等
事業費	16.7億円（国8.2億円、諫早市8.5億）
整備完了年	2035年(令和17年)度
事業期間	2026年(令和9年)度～2040年(令和22年)度

【工程表】

工種	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22
調査・設計		■	■												
高水敷整正（会場）						■	■	■	■	■					
基盤整正（建屋）						■									
階段護岸			■												
管理用通路（坂路）				■	■										
管理用通路										■					
モニタリング調査											■	■	■	■	■

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

３）事業の現状

◆深海地区においては、コスモス祭りや本明川スポーツフェスタ、どんど焼き等のイベント開催に加え、ローイング競技の国民スポーツ大会や県大会、部活動練習、強化合宿拠点としても県内外から多くの選手・関係者が訪れるなど、既に多様な河川空間の利活用が定着しており、今後もさらなる利用促進が期待される。

◆このような既存の利活用を通じて、整備内容の具体化を進めるとともに、地域住民を主体とした利活用方法や維持管理の実施体制の強化に取り組んでおり、地域住民からも拠点の再認知や利活用環境向上の期待感が高まっている。

【深海地区の利活用状況】



コスモス祭り　2025年(令和7年)10月



本明川スポーツフェスタ2024年(令和6年)11月



どんど焼き　2026年(令和8年)1月



国民スポーツ大会　2025年(令和7年)7月



ローイング練習（日本代表強化合宿）



長崎県高等学校総合体育大会
2025年(令和7年)5月

2. 事業の進捗の見込み

（1）事業の変更内容（新規箇所：深海地区）



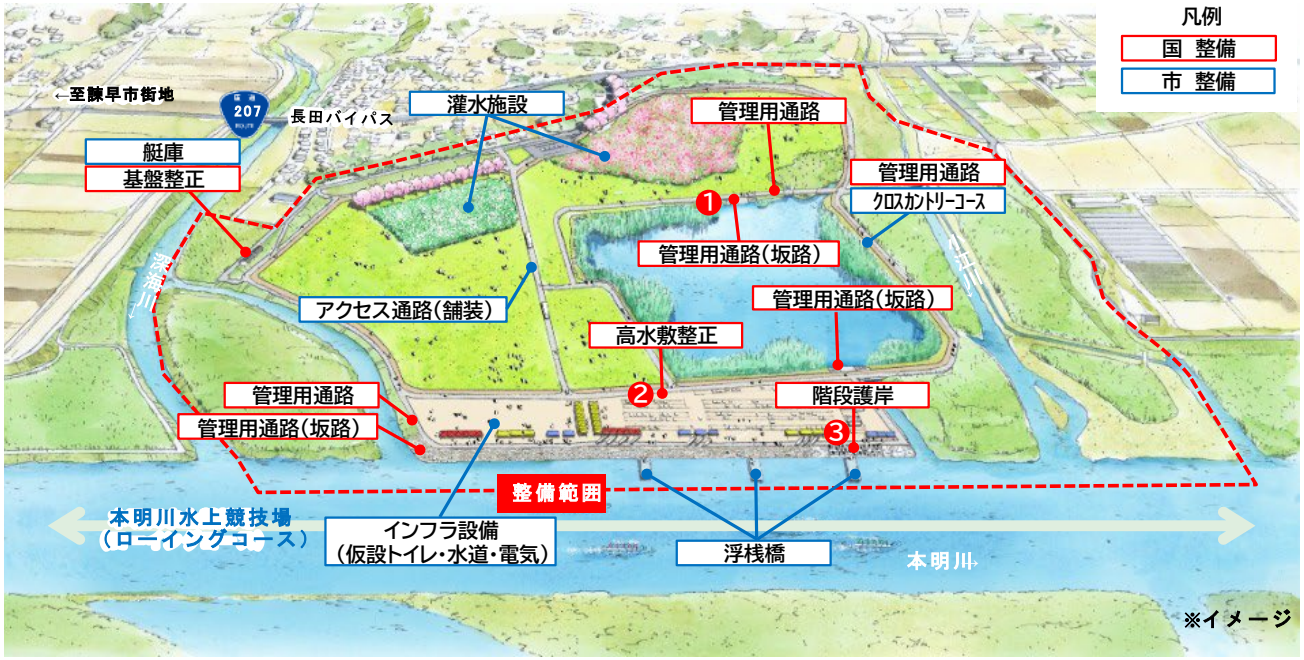
◆2026年（令和8年）8月にかわまちづくり支援制度の登録を受け、本明川総合水系環境整備事業に「深海地区」を追加した。
（本工事費 約14.0億円）

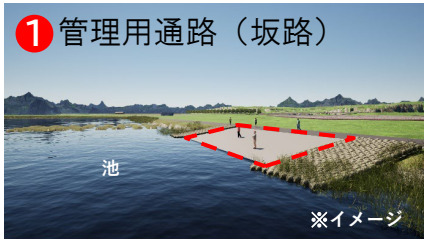
◆本計画は、既存の地域資源を最大限に活かしたスポーツ振興や体験型ツーリズムを創出し、新たな賑わいの拠点づくりを進めることで、交流人口のさらなる増加を図るものである。

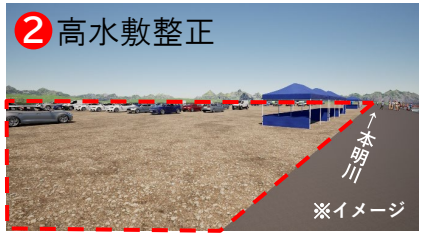
◆維持管理の方針、具体的な運用、利用上のルール等については、今後地元団体・自治体と協議を行いながら、具体的な内容を検討していくこととしている。

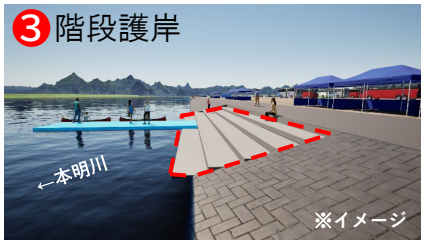
“川辺を舞台にスポーツや体験を通じた地域の魅力創出”

本明川干陸地の豊かな自然や風景を舞台に、スポーツや体験を通じた交流を育み、地域の魅力を次世代へつなぐ空間づくりを進めます。









2. 事業の進捗の見込み

（２）事業の実施状況

◆事業名：本明川総合水系環境整備事業
◆計画（整備内容）
〈水辺整備（天満・永昌地区、深海地区）〉
・高水敷整正、管理用通路、管理用階段、護岸、モニタリング調査　等
◆総事業費：約23.9億円
◆整備期間：2013年(平成25年)度から2040年(令和22年)度
◆事業進捗率：約30.2%
◆残事業費：約16.7億円（残事業：高水敷整正、管理用通路、階段護岸、基盤整生、モニタリング調査　等）
◆事業の進捗状況
・天満・永昌地区は、2017年(平成29年)度に管理用通路等面的整備が完了し、2018年(平成30年)度から供用開始している。　駅前公園周辺の拠点整備は2023年(令和5年)度に整備完了し、2024年(令和6年)度から供用開始している。
・深海地区は、2026年(令和8年)度にかわまちづくり支援制度に登録され、今後は高水敷整正、管理用通路、階段護岸等の整備を予定している。

2. 事業の進捗の見込み

（３）今後の事業展開

◆天満・永昌地区では、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、**2013年(平成25年)度に事業に着手し、**2017年(平成29年)度に管理用通路等面的整備、2023年(令和5年)度に駅前公園周辺の拠点整備が完成した。
2024年(令和6年)度以降はモニタリング調査を実施しており、2027年(令和9年)度に完了予定である。

◆深海地区では、かわまちづくり計画に基づき整備の詳細を検討中の段階であり、**2027年(令和9年)度に事業に着手し、**2035年(令和17年)度に整備完了予定である。
2036年(令和18年)度以降はモニタリングを実施し、2040年(令和22年)度に完了予定である。

（４）今後の事業の進捗の見込み

◆天満・永昌地区では、2012年(平成24年)4月より地域住民や諫早市、国土交通省等より構成された「本明川河川利用懇談会」が開催され、また、施設完成後は、地元自治会や大学生、商店街メンバーの共同企画・運営によるイベントが開催されるなど、地域の協力体制が整っており、**今後も順調な事業進捗が見込まれる。**

◆深海地区では、2024年(令和6年)11月より地域住民や諫早市、国土交通省等より構成された「本明川・深海地区かわまちづくり協議会」 、「本明川・深海地区かわまちづくり検討部会」が開催され、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について議論していく予定であり、**今後も順調な進捗が見込まれる。**

3. 主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善

（1）主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画の検討

◆本明川下流部におけるスポーツ振興への機運の高まり等を背景とした、本明川・深海地区かわまちづくり計画の新規登録に伴い、総合水系環境整備事業計画について**前回評価時から変更**する。

（2）代替案の可能性の検討

◆天満・永昌地区の整備内容は、 「本明川河川利用懇談会」で議論を重ねた上で整備内容を検討しており、**河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切**と考えている。
2026年（令和8年）度現在は整備完了後のモニタリング段階であり、2027年（令和9年）度に完了予定である。

◆深海地区の整備内容は、「本明川・深海地区かわまちづくり協議会」、「本明川・深海地区かわまちづくり検討部会」で企画段階から地域住民等と継続的に協議を重ねており、**河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切**と考えている。

（3）コスト縮減の方策

◆天満・永昌地区では、管理用通路や護岸整備により生じる建設発生土を埋戻材に利用するなど、建設コスト縮減を図った。

◆地域住民や自治体協力のもと、整備箇所周辺の除草・清掃活動に取り組む。

◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による**新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。**



埋戻材への利用状況
（天満・永昌地区）



地域住民等による清掃状況
（深海地区）

4. 関係自治体の意見等

◆長崎県知事
本明川学識者懇談会に諮る対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

本明川総合水系環境整備事業における深海地区の追加は、干陸地を活用した地域振興や、にぎわいの創出に資する重要な取組であると認識していることから、引き続き事業を推進していただきたい。

5. 対応方針(原案)

①事業の必要性に関する視点

- 天満・永昌地区においては、2013年(平成25年)度～ 2023年(令和5年)度に整備を行い、整備完了後は通勤、通学、散歩などの日常利用や市民企画のイベントの場として有効利用されている。整備後は、地域住民による清掃等も行われるなど、**地域住民が主体となり諫早市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践しているところである。**
- 深海地区では、諫早市が進める本明川下流部の河川空間を活用したスポーツやレクリエーションの推進に向け、**安全で安心して利用出来る河川空間の整備が強く望まれているため、水辺空間の整備が必要である。**
- **費用対効果は、全体事業２．６、残事業１．２**である。

②事業の進捗の見込みの視点

- 天満・永昌地区では2023年(令和5年)度に整備が完了した。2024年(令和6年度)からモニタリングを実施しており、**2027年(令和9年)度に完了する見込み**である。
- 深海地区では、かわまちづくり計画に基づき整備の詳細を検討中の段階であり、2035年(令和17年)度に整備完了予定である。2036年(令和18年)度以降はモニタリングを実施し、**2040年(令和22年)度に完了する見込み**である。
- 利活用や維持管理等、**地域の協力体制が確立されている**ことから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

③主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善の視点

- 本明川・深海地区かわまちづくり計画の新規登録に伴い、総合水系環境整備事業計画について前回評価時から変更する。
- **建設発生土の有効利用**によりコスト縮減を図るとともに、今後もコスト縮減の方策として、新技術・新工法を活用するなど、事業の効率的な推進に努める。

④対応方針（原案）

- 当該事業は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点、主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減、代替案立案等の改善の視点から検討した結果、「**改善継続**」が妥当であると考える。